

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

水の路、生活の灯

～標高差に着目したまちあるき～

1603年に江戸に幕府が開かれてから50年後、人口増加による水不足を解消するために、**(A) 玉川上水**が完成しました。取り入れ口の羽村から四谷大木戸までは約43kmありますが、高低差は約92mしかありません。そこで、土地の高い所を選びながら、100mごとに21cmずつ深く溝を掘る工事が行われました。上水が武蔵野台地の尾根を流れるように設計されたことにより、水路の両岸のどの部分にも分水が可能になりました。



標高66m超
高

(C) 田無用水 玉川上水開通から43年後の元禄年間、1688～1704年に田無用水が引かれました。現在の小平市小川町の喜平橋付近で玉川上水から分水。橋場で2つの水路に分かれ、青梅街道北側の水路(本流)は保谷から練馬に入り、田柄川に注ぎ、南側の水路は田無駅東側のガード下付近で石神井川に合流しました。今は、どちらも暗渠化され、それぞれ「やすらぎのこみち」「ふれあいのこみち」になっています。このほかにも小さな支流があり、用水のおかげで、井戸や運び水で維持されていた村人の生活も豊かになったといえます。

用水の跡をたどると、小平市の方から流れてきた水路は、橋場の手前で90度左折し、青梅街道に出てから橋場に至っています。そこは窪地で、直進すると2mほど下ることになるので、迂回したのではないかと考えられます。



歩道の部分に水路があった



左折した用水路(現在は歩道)

(B) 千川上水 玉川上水の完成から42年後の1696年、湯島聖堂や上野寛永寺への給水を目的として、千川上水が完成しました。現在の新町四丁目で玉川上水から分水していますが、取水口は3回付け替えられたそうです。



玉川上水にある取水口の跡



(D) 石神井川 東伏見二、三、六丁目にある下野谷遺跡は、石神井川に面する南側の高台から低地にかけてひろがっています。今から約4000～5000年前の縄文時代中期に、1000年近い長期間にわたり継続して営まれた大集落跡です。集落は日当たりのよい高台にあり、約7m下を流れる石神井川の水量も、当時は豊富だったのでしょうか。石神井川最上流域に位置する内陸の大集落でしたが、丸木舟を使って海辺の集落との交流もあったと考えられます。



東側から撮影



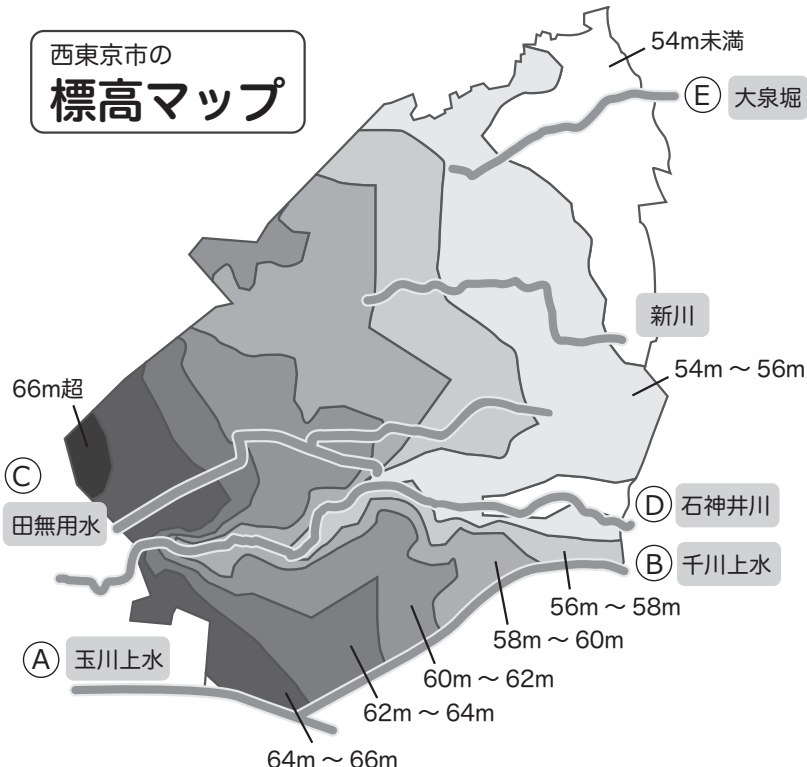
西側から撮影

(E) 大泉堀 大泉堀と新川は、練馬区の井頭池(現在は大泉井頭公園)を源流とする白子川の支流です。ともに窪地の底を走る水路で「シマッポ」とも呼ばれていました。常時水が流れているのではなく、豪雨の後などにだけ水が流れる空堀でした。現在は暗渠になっています。



暗渠と白子南公園

西東京市の標高マップ



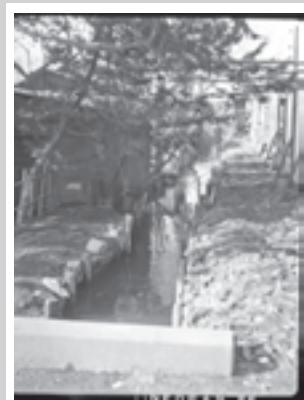
写真で見る

むかしの

田無用水・大泉堀



大泉堀(白子川)の改修工事
昭和47年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



田無用水
現在は暗渠となっている
昭和35(1960)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵